

# < 調査業務の概要 >

2009(平成21)年7月27日

## 業務分野

1	精神文化保全対策調査	
2	生物の生存環境現地調査	
3	(1)	生活文化現地調査 川洲畑現地調査
	(2)	生活文化現地調査 伝統的漁法調査
4	地域文化保全対策普及調査	
5	有用植物移植試験及びモニタリング調査	

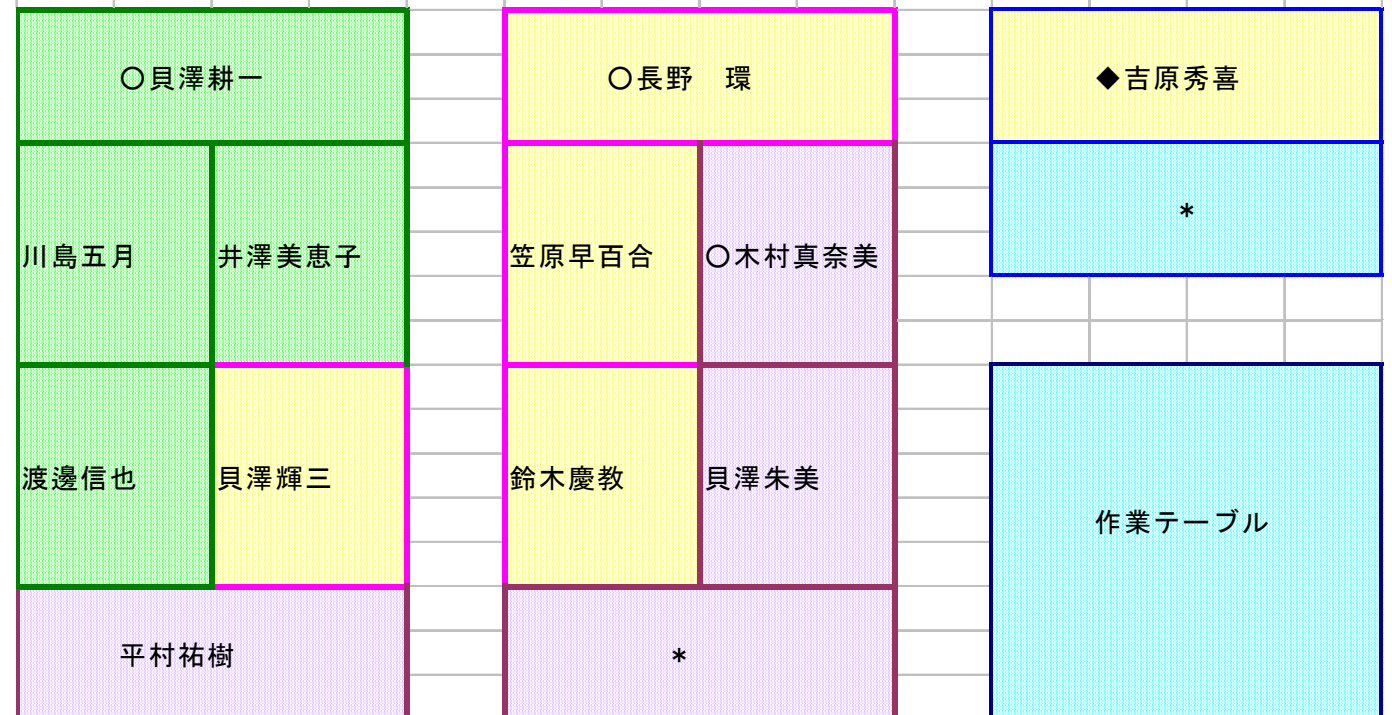
## 参考資料-1

第10回平取ダム地域文化保全対策検討会  
平成21年7月27日

### ■グループ編成

グループ名	スタッフ(調査業務員)氏名				
総務グループ	○長野 環 <業務指導員>	貝澤輝三 (川島五月)	笠原早百合	鈴木慶教	◆吉原秀喜 <主幹・学芸員>
現地グループ	○貝澤耕一 <業務指導員・相談役>	井澤美恵子 (貝澤輝三)	川島五月 (笠原早百合)	渡邊信也 (平村祐樹)	
情報グループ	○木村真奈美 <業務指導員>	貝澤朱美 *	平村祐樹 (鈴木慶教)		

### ■調査室職員配置



### ■業務分野担当

業務分野	主担当	副担当	所属グループ
1 精神文化保全対策調査	◎長野 環	○貝澤朱美	総務グループ
			情報グループ
2 生物の生存環境現地調査	◎川島五月	○木村真奈美	現地グループ
			情報グループ
3-(1) 生活文化現地調査：川洲畑現地調査	◎井澤美恵子	○笠原早百合	現地グループ
			総務グループ
3-(2) 生活文化現地調査：伝統的漁法調査	◎貝澤耕一	○鈴木慶教	現地グループ
			総務グループ
4 地域文化保全対策普及調査	◎木村真奈美	○長野 環	情報グループ
			総務グループ
5 有用植物移植試験及びモニタリング調査	◎貝澤朱美	○川島五月	情報グループ
			現地グループ

■平取町アイヌ文化環境保全対策事業の体制概念図 (平成21年度)

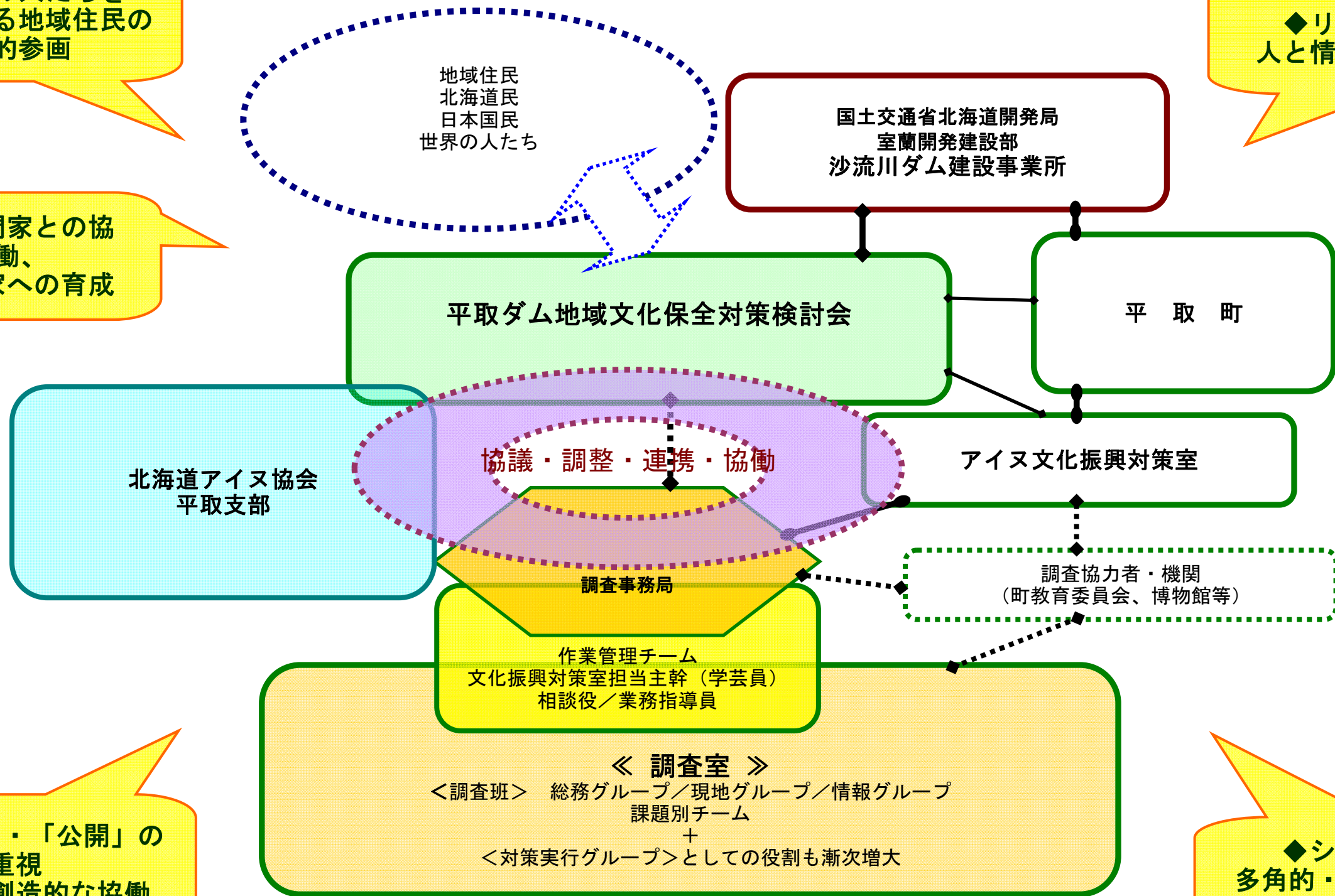
◆アイヌの人たちをはじめとする地域住民の主体的参画

◆リンク（ウコウク）＝人と情報のつながりを重視

◆専門家との協働、専門家への育成

◆「学習」・「公開」の重視  
双方向で創造的な協働

◆シミュレーション＝多角的・実証的データをふまえ予測、対策案提示





事業名	アイヌ文化環境保全対策事業 [平成21年度平取ダム地域文化調査業務]												
業務分野	1 - 精神文化保全対策調査												
目的/課題	●精神文化に係る保全対象について、視覚的な資料（写真等）を収集整理し取りまとめをすること。												
想定する成果 *目標とする状況・物品	●これまで集積された情報に、画像資料（写真等）及びそれらを活用したシミュレーション的検討に供する視認性の高い資料を加えて拡充した精神文化保全対象に関するデータベース												
調査方法	○現地踏査（写真撮影等） ○聞き取り調査 ○文献調査 ○先行事例調査 ○手法として ◇ワーキング・グループ ◇仮想的検討（シミュレーション）												
年間作業工程 (行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	→											
	◆視覚的資料作成現地調査	→											
	◆先行事例調査			→									
	◆精神文化に関する意向調査			→									
	◆保全対象データベース整備			→									
	◆成果取りまとめ				検討会などにおける報告								報告書作成
作業工程 (行程)上の 留意事項	○文献等既存情報の利用は主に教育委員会文化財課（町立二風谷アイヌ文化博物館等）との連携・協力による。												
主担当	◎長野環						総務グループ						
副担当	○貝澤朱美						情報グループ						
備考 (今後の展開上の留意点等)													

【4月～7月の作業状況】



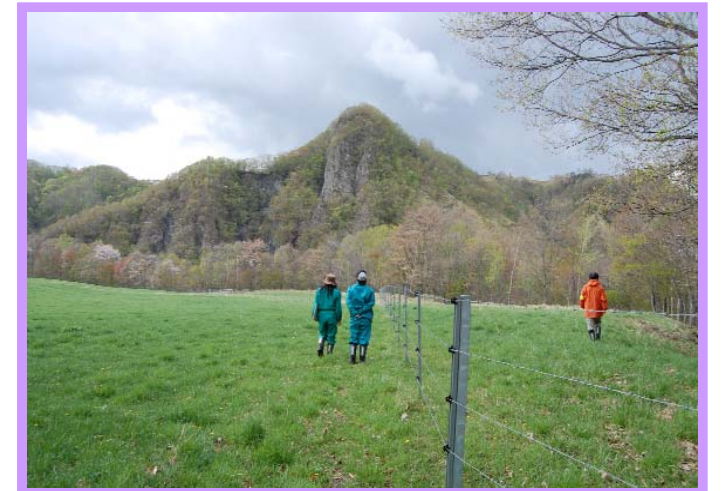
◆精神文化において重要な場所の立地等を再確認



◆ダムの水位変化による景観の変化等を現地で検討



◆電子機器を用いてイメージを描き、影響を予測



◆探索路(フットパス)の道筋を探るための踏査



◆小屋跡付近にあるかつて利用した湧き水の整備



◆カムイワッカの流路を清掃、流量変化を調査



事業名	アイヌ文化環境保全対策事業 [平成21年度平取ダム地域文化調査業務]												
業務分野	2 - 生物の生存環境現地調査												
目的/課題	●アイヌ文化に有用な植物の植生状況(種、数量、位置等)把握に必要な調査計画を策定した上で、現地調査を実施し、アイヌ文化に有用な植物の具体的な保全対策案(展示及び増殖を目的とした移植計画・移植工程・移植配置計画図)を整理し取りまとめること。												
想定する成果 *目標とする状況・物品	●現地調査成果 (植物生育状況データベース) ●植物保全対策(展示・増殖計画)案												
調査方法	○現地踏査 ○聞き取り調査 ○文献調査 ○先行事例調査 ○手法として ◇ワーキング・グループ ◇仮想的検討(シミュレーション)												
年間作業工程 (行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	◆植物現地調査	●→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆植生状況整理	●→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆展示目的植物移植等計画作成		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆〃移植等工程作成		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆〃移植等配置図作成		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆増殖目的植物移植等計画作成		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆〃移植等工程作成		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆〃移植等配置図作成		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
◆成果取りまとめ												●→	
作業工程(行程)上の留意事項	○文献等既存情報の利用は主に教育委員会文化財課(町立二風谷アイヌ文化博物館等)との連携・協力による。												
主担当	◎川島五月						現地グループ						
副担当	○木村真奈美						情報グループ						
備考 (今後の展開上の留意点等)													

【4月～7月の作業状況】



◆工事(地すべり防止等)予定箇所での現地説明



◆工事による改変箇所から移植する稚樹を選定



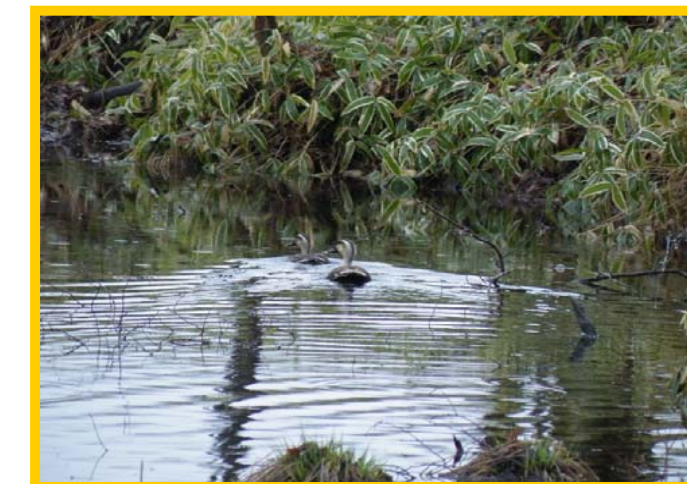
◆重要草本種を[表土ブロック方式]で移植する作業



◆昨年のササ刈り試行区ではコロコニ=フキが繁茂



◆水辺の状況を把握しながら環境整備(N-08区域)



◆水辺空間を広げた試行区(S-05)ではカモが休息



事業名	アイヌ文化環境保全対策事業 [平成21年度平取ダム地域文化調査業務]												
業務分野	3 - 生活文化現地調査 (1) 川洲畑現地調査												
目的/課題	●アイヌ文化期にかつて行われていた栽培様式(川洲畑)について、栽培様式を伝承する際の基礎資料とするため、調査計画を策定したうえで、聞き取りや現地調査等に基づいて試験適地を選定し栽培試験を行う。試験結果に基づき生育状況を把握しデータ蓄積を行うと共に、収穫物を利用したアイヌ文化期の食事など、当時の生活様式の再現を行い調査結果を取りまとめること。												
想定する成果 *目標とする状況・物品	●現地(川洲畑)における実験 ●川洲畑等における一定量の収穫物 ●沙流川流域における伝統的な食文化や生活様式に関する集積情報												
調査方法	○現地における実験的实施(昨年度実施箇所等) ○聞き取り調査 ○食文化の試行 ○手法として ◇ワーキング・グループ ◇仮想的検討(シミュレーション)												
年間作業工程(行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	→											
	◆試験適地選定	→											
	◆現地整備・試験	→	播種										
	◆現地試験状況モニタリング		→										
	◆聞き取り調査		→										
	◆文献調査		→										
	◆食文化再現調査		→										
◆成果取りまとめ			→										
◆報告書作成				→									
◆検討会などにおける報告				→									
作業工程(行程)上の留意事項	○文献等既存情報の利用は主に教育委員会文化財課(町立二風谷アイヌ文化博物館等)との連携・協力による。												
主担当	◎井澤美恵子			現地グループ									
副担当	○笠原早百合			総務グループ									
備考(今後の展開上の留意点等)													

【4月～7月の作業状況】



◆耕作地選定のため土質を点検(川洲畑-3)



◆略式の祈り後、体験者と共に耕作(川洲畑-3)



◆昨年から継続して試験栽培を行う川洲畑-1



◆二風谷育苗畑2にも設けた試験区での播種作業



◆播種後の生育状況をモニタリング(川洲畑-1)



◆新設の紫雲古津試験畑での除草・間引き作業



事業名	アイヌ文化環境保全対策事業 [平成21年度平取ダム地域文化調査業務]													
業務分野	3 - 生活文化現地調査 (2) 伝統的漁法についての調査													
目的/課題	●平取ダム建設予定地周辺でかつて行われていた伝統的漁法について、調査計画を策定した上で聞き取り調査、文献調査及び現地調査を実施し伝統的漁法再現のための基礎資料(伝統的漁法及び使用されていた漁具等)をとりまとめる。また、調査結果を基に伝統的漁法実証試験の実施工程の作成及び試験候補地の選定を行う。													
想定する成果 *目標とする状況・物品	●伝統的漁法再現に向けた基礎資料 ●伝統的漁法実証試験の実施工程・試験候補地案作成													
調査方法	○聞き取り調査 ○文献調査 ○現地踏査 ○手法として ◇ワーキング・グループ ◇仮想的検討(シミュレーション)													
年間作業工程(行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	◆調査計画検討	→												
	◆聞き取り調査	→												
	◆文献調査	→												
	◆漁法実証試験工程作成	→												
	◆漁法実証試験候補地選定	主にサキベ				主にシベ								
	◆成果取りまとめ	検討会などにおける報告										報告書作成		
作業工程(行程)上の留意事項	○文献等既存情報の利用は主に教育委員会文化財課(町立二風谷アイヌ文化博物館等)との連携・協力による。													
主担当	◎貝澤耕一						現地グループ							
副担当	○鈴木慶教						総務グループ							
備考(今後の展開上の留意点等)														

【4月～7月の作業状況】



◆水生生物調査でニホンザリガニの生息を確認(希少種などは捕獲・確認後にリリース=解放)



◆捕獲具類はできるだけ自製で(タモづくり)



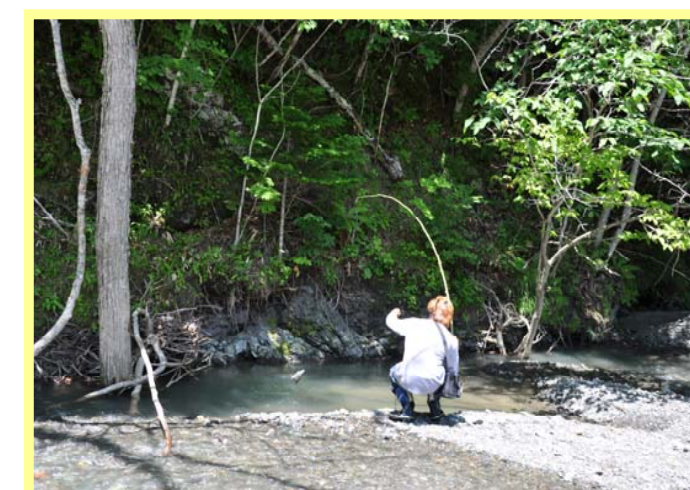
◆調査用具を作製するための皮はぎ作業(ヤイニペシニ=オオバボダイジュ)



◆生息状況の調査と漁法の試行を兼ねた延縄



◆クトゥ(どう=漁具)の仕掛けを自製し試行



◆レクッタテ=ヨブスマソウを用いた漁法での調査



事業名	アイヌ文化環境保全対策事業 [平成21年度平取ダム地域文化調査業務]												
業務分野	4 - 地域文化保全対策普及調査												
目的/課題	●平成20年度に取りまとめたアイヌ語地名の小冊子を使用し、関係機関等（教育機関、自治体関係者等）を対象に保全対策普及のための試行調査を実施し、意見・感想等を収集して調査結果を取りまとめる。また、調査結果を踏まえ、小冊子等を使用した地域文化保全対策普及のための具体的な実施プログラム案を作成する。												
想定する成果 *目標とする状況・物品	●普及のための試行調査の成果とりまとめ ●普及啓発に使用する小冊子 ←その基礎資料であり、情報源ともなるデータベースの拡充・活用（たとえば、教育機関との連携による） ●普及のための実行プログラム具体案												
調査方法	○先行事例調査 ○試験的授業 ○現地学習（協働フィールドワーク） ○意向（意見・感想）把握調査→ アンケート/ヒアリング ○手法として ◇ワーキング・グループ												
年間作業工程 (行程) 概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	→											
	◆普及試行調査	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆意向調査	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆先行事例調査	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆普及プログラム作成				→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆成果取りまとめ												→
作業工程（行程）上の留意事項	○文献等既存情報の利用は主に教育委員会文化財課（町立二風谷アイヌ文化博物館等）との連携・協力による。												
主担当	◎木村真奈美	情報グループ											
副担当	○長野環	総務グループ											
備考 (今後の展開上の留意点等)													

【4月～7月の作業状況】



◆地名データ拡充のための現地踏査・検証



◆保全対策(普及啓発)検討のための現地協議



◆精神文化面もあわせて改変による影響を検討



◆地域における地名保全・継承の活動を取材



◆学校教育における活用法を探るための研究協議



◆教職員研修のフィールドワーク=現地探索



事業名	アイヌ文化環境保全対策事業 [平成21年度平取ダム地域文化調査業務]												
業務分野	5－有用植物移植試験及びモニタリング調査												
目的/課題	●これまでの調査結果・計画に基づき、有用植物の移植試験及び播種栽培試験を実施する。試験の結果を踏まえ、有用植物の種ごとの移植マニュアル・播種栽培マニュアルを作成すること。また、移植及び播種の状況(既に実施している有用植物含む)を確認するためにモニタリング調査及び試験地の整備作業を行うとともに、次年度以降のモニタリング計画案(モニタリング頻度、モニタリング項目)を取りまとめること。なお、試験実施する種については調査職員と協議の上決定する。												
想定する成果	●現地における移植試験及び播種栽培試験の成果とりまとめ (モニタリング結果とその分析の提示) ●植物育成マニュアル												
*目標とする状況・物品	●試験地整備 ●H22年度以降のモニタリング計画												
調査方法	○現地試験 ○モニタリング→ H20年度までにマニュアル(手引き)化した方法をふまえる ○先行事例調査 ○試験地整備は主に調査作業員による ○手法として ◇ワーキング・グループ ◇仮想的検討(シミュレーション)												
年間作業工程(行程)概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	→											
	◆移植・播種等試験事前準備	→											
	◆試験地整備		シカ対策など	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆移植・播種等試験(木本)		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆移植・播種等試験(草本)		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆試験モニタリング		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	◆移植・播種等マニュアル作成		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
◆成果取りまとめ				検討会などにおける報告	→	→	→	→	→	→	→	→	報告書作成
作業工程(行程)上の留意事項	○文献等既存情報の利用は主に教育委員会文化財課(町立二風谷アイヌ文化博物館等)との連携・協力による。												
主担当	◎貝澤朱美						情報グループ						
副担当	○川島五月						現地グループ						
備考(今後の展開上の留意点等)													

【4月～7月の作業状況】



◆育苗畑における苗木移植と遮光のための整備作業



◆育苗畑での散水など苗木育成のための作業



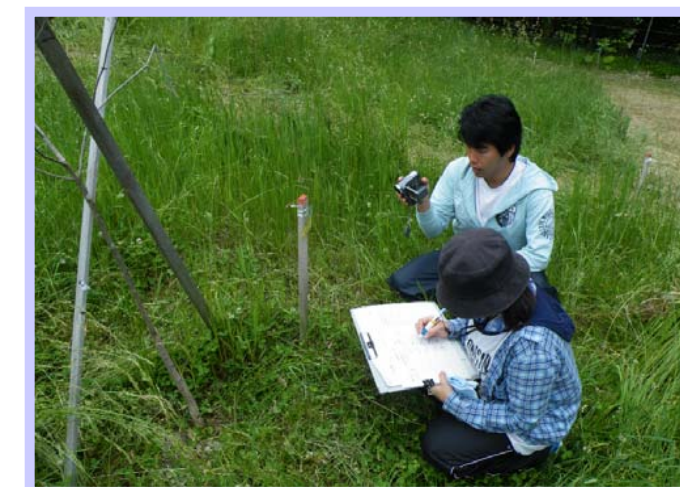
◆播種から発芽した苗の移植などの育成作業



◆活着率が高い[表土ブロック方式]の草本種移植



◆播種栽培試験に向けて各種の種子を採取



◆生育状況モニタリング作業の状況(S-05、6月)